

第3回臨時会

【可決した議案】

- 令和2年度一般会計補正予算
主に、次の内容で総額111億2,160万円を補正するものです。
 - ・院内感染防止対策推進費
 - ・宿泊施設応援費
 - ・飲食店等グループ販売促進支援費
- など、合計3件の議案を可決しました。(7/3)

委員会の主な活動状況

(6/11~7/10)

大都市税財政制度・災害対策調査特別委員会
令和3年度国の施策及び予算に関する提案(通称「白本」)について財政局から、令和3年度国家予算等に対する札幌市重点要望事項についてまちづくり政策局から説明を受け、質疑を行いました。(6/18、7/1)

第3回定例会のお知らせ

本会議
令和2年第3回定例会は9/23(水)から11/2(月)まで開催され、各党派の代表質問は、9/29(火)から3日間行われる予定です。

決算特別委員会
令和元年度の本市の決算について、局ごとに審査します。
日程：10/1(木)、8(木)、12(月)、14(水)、16(金)、20(火)、22(木)、26(月)、30(金)
※審議日程は変更になる場合があります

お知らせ

インターネット中継
本会議や特別委員会の模様は、インターネットで生中継しているほか、会議終了からおおむね5日後(土・日曜、祝・休日を除く)には、録画映像も公開しています。市議会ホームページからご覧ください。

電子書籍版さっぽろ市議会だより
電子書籍サイトやスマートフォンアプリにさっぽろ市議会だよりを掲載しています。
(掲載先)札幌市電子図書館、ホックイドワイヤーズ、北海道の広報まるごと検索くん、マチイロ(スマートフォンアプリ)

■編集 札幌市議会事務局
政策調査課
☎211-3164 FAX218-5143
■市議会ホームページ
www.city.sapporo.jp/gikai



地域医療構想、
手稲区の交通利便性
佐々木 明美
日本共産党

○厚生労働省が推進する地域医療構想では、2025年までに全国の高度急性期病床と急性期病床を合わせて20万床を削減させる構想となっています。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、本市は道内の中心都市として患者を受け入れ、医療崩壊寸前の緊急対応に追われ、医療現場は大変な苦勞をされています。広域な北海道の中心都市として病院機能・病床確保が求められていますが、地域医療構想の推進についてどのように考えていますか。

○地域医療構想は、医療法に基づく一般病床および療養病床を対象として、今後の人口構造の変化やそれに伴う医療の在り方の変化に対応した医療提供体制の構築を目的とした構想です。北海道においては北海道地域医療構想を策定しており、札幌圏を含めた各二次医療圏で過不足のない医療提供体制を構築することとされています。今後、地域医療構想に加え、感染症への適切な対応も含めた医療提供体制について、今回の対応を通じて得られた知見も生かしながら、国や北海道とも協議のうえ、引き続き構築を進めていきます。

○手稲区の山側高台地域では、坂道が多く道幅が狭いため交通利便性が悪く、買い物や通院などの日常生活に制約があることから、交通への支援が不可欠です。今後ますます高齢化が進む中、坂道の多い地域で暮らす市民への支援についてどのように考え、どのような交通手段を検討していますか。

○超高齢社会の到来など社会環境が大きく変化していく中、地域交通の在り方について、他都市の事例などを参考に検討していきます。



複合災害への備え、
介護現場のICT導入
くまがい 誠一
公明党

○新型コロナウイルスなどの感染症まん延時に、大規模な自然災害が同時発生した場合を想定して、避難所運営における感染症対策を見直すことが不可欠だと考えますが、現在の状況と今後の取り組みはどうなっていますか。

○避難所の衛生対策に必要なマスクなどについては、現在、最大避難者数分を調達していますが、新型コロナウイルス感染症の長期化も見据えて数量や品目のさらなる拡充が必要だと認識しています。このため、マスクなどの数量を増やすとともに、非接触型体温計やハンドソープなども新たに備蓄することとしています。また、現行の避難所運営マニュアルを新型コロナウイルス感染症に対応させる見直しも進めているところであり、今後速やかに公表し、周知を図っていきます。

○介護現場における人材不足が深刻化していく中、ロボット技術やICT(情報通信技術)の導入が目目されていますが、いまだ普及しているとは言えないのが現状です。介護現場における職員の身体的・精神的負担の軽減のため、ICTなどの導入は喫緊の課題だと考えますが、いかがですか。

○市内の介護事業所には、居室内の見守りセンサー設置やタブレット端末を活用した介護記録など、既にICTなどを導入している事例もあります。ICTなどを活用することは、業務時間の短縮や職員の負担軽減につながるから、介護人材不足を補完し、安定的な介護サービスの提供を継続する上で有効であり、積極的に推進するべきものと認識しています。



○定山溪は、温泉のみならず、自然やアクティビティなど多くの観光スポットを有し、都心部とは違った楽しみ方が体験できることから、札幌観光の多様性や魅力を高める重要な観光資源であると考えています。こうしたことから、本年度は、定山溪らしい景観を創出している「湯の滝」や公園施設の一部の再整備といった取り組みを進めています。今後、新型コロナウイルス感染症収束後の社会経済状況の中で定山溪地区の魅力をどのように高めていくのか、地元との協議を進めていきます。

感染症まん延期の避難所の情報、医療機関や医療従事者への支援

うるしはら 直子 民主市民連合



○新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、災害が発生した際の避難所の避難者受け入れについてどのように考え、市民への事前周知を行っていきますか。また、感染症まん延期に災害が発生した際、避難所の開設・受け入れ状況の発信をどのように行いますか。

○感染症拡大防止の観点から、できるだけ避難所の過密状態を防ぎ、避難者にマスクの持参など基本的な対策を周知することが重要だと認識しています。このため、避難所における基本的な対策や、災害の状況によっては、安全の確保を前提に自宅にとどまってもらう場合もあることなど、広報さっぽろやホームページなどで幅広く周知を図ります。避難所の開設状況などは、既存の媒体を最大限活用するほか、構築中の防災支援システムを通じて避難者数を迅速に集約し、混雑状況の「見える化」を図るなど、より早く分かりやすい情報発信に努めます。



○新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れている病院では、経営が厳しい状況にあることに加え、医療スタッフの確保と配置などに多大な負担がかかっています。本市は今後、患者を受け入れている医療機関や医療従事者に対してどのような支援を行っていきますか。

○医療機関などへの支援を目的とする「新型コロナウイルス札幌さえあい基金」の創設や、感染が疑われる患者の入院受け入れに対する補助、体制整備のための協力の金交付など、支援を拡充していきます。また、個人防護具を引き続き本市が調達して提供し、医療従事者の皆さまが安心して働けるよう環境整備を支援していきます。今後も、医療機関が必要とする支援が行き渡るよう国に対しさらなる財政的支援を要請することも含め、全力を尽くして医療の現場を支えていきます。

市議会の動き

5月28日に招集された第2回定例会の中から、6月3日、4日の代表質問の主な内容についてお知らせします。

※写真に入っている横線は、新型コロナウイルス感染症対策の亚克力板によるものです

バスネットワークの確保、定山溪の観光振興の在り方

小須田 ともひろ 自由民主党



○市内のバス事業は、民間事業者によってバスネットワークが形成されていますが、経営の厳しさや近年の運転手不足などにより、バス便数の減便を継続的に行わなければならない実情となっています。現状を踏まえ、市内のバスネットワークについてどのように考えていますか。また、今後どのような取り組みを進めていきますか。

○バスネットワークは、通勤、通学、買い物など、市民生活や経済活動に欠かすことのできない交通手段の一つであり、安定的に維持していくことが重要だと認識しています。しかし、利用者数の低迷や運転手不足などの課題を抱え、これまで通りのバス路線の維持が非常に厳しい状況にあることから、予約により運行するデマンドバスや、地域の実情に合わせた大型バスによらない運行形態の導入など、新たな視点から、市民の足を守るための手法を検討していきます。



○本年度予算では、定山溪地区魅力アップ費が大幅に増額されており、老朽化施設の再整備やネイチャールミナリエのリニューアル、誘客プロモーションに対する補助などを新たに実施することとしています。今後も同規模の取り組みを継続し、定山溪の魅力を高めていくべきだと考えますが、いかがですか。